

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(平成30年1月分)

平成30年3月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

イ スルプスカ共和国(RS)

※当該月、ブルチュコ特別区に関する主立ったニュースはなし。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構 (EU加盟プロセスを含む)

(2) 二国間関係

3. 経済

(1) 経済指標

(2) 経済政策、公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: 以下は、現地紙など公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

● コムシッチDF党首、大統領評議会クロアチア系メンバー選挙への立候補の意向を表明(11日)

11日、コムシッチ民主戦線(DF、社会民主主義、多民族政党、野党)党首が、テレビインタビューにおいて、2018年10月に行われる国政選挙における、BH大統領評議会メンバー(クロアチア系)への立候補の意向を表明した。

コムシッチ党首はクロアチア系であるが、同人は、2006年から2014年まで、主にボシュニャク系市民からの得票により、連続2期に渡

り同職を務めた。BH憲法により、大統領評議会のクロアチア系メンバーとボシュニャク系メンバーはBH連邦から、セルビア系メンバーはRSからそれぞれ直接選挙で選ばれることが定められているが、投票者の所属民族に規定はない。また、任期は最大2期までと定められているが、1期インターバルを置けば再度立候補が可能となる。

HDZを始めとするクロアチア系政党は、コムシッチ党首のような他民族の得票によるクロアチア系メンバーの当選が再び起こることを懸念して、現在BH議会において、これらの改正を反映した自身のBH選挙法改正法案を推し進めている背景があり、同党首の今後の動きには注目が集まっている。

●BH議会、SDS議員2名の離党(24日、25日)

24日、BH議会下院のクルチュマル議員が、また、25日、同院ブコブリャック議員がセルビア系国政与党「変革のための同盟」第一党であるSDSから離党し、国政野党・RS与党としてドディックRS大統領率いるSNSDと連立を組むDNSへの移籍を発表した。これにより、直ちに与野党の組替えが起きることはないが、与党の運営が今後更に厳しくなることが予想される。

●2018年度前年度並みで国政予算を成立(25日)

25日、BH議会上院は会合を実施し、2018年の予算を、前年度並みの約19億5,400万KM(約9億9,906万ユーロ)で採択した。17日に下院は同予算を採択済みの為、これにより同予算は成立した。

現在、BH議会はBH選挙法改正法案をめぐり、激しく対立しているため、旧年度中に予算を成立できず、3月までの暫定予算で新年度を開始していた。

●PDP、イバニッチ大統領評議会セルビア系メンバーの次期選挙擁立を決定

ボレノビッチPDP党首(セルビア系国政与党・RS野党「変革のための同盟」)は、2018年10月の国政選挙において、現職のイバニッチ大統領評議会メンバー(セルビア系)を同職、もしくはRS大統領の候補に擁立することを発表した。2つのポストの内どちらの候補となるかは、「変革のための同盟」を組むSDSが擁立候補を決定次第、振り分けを行う。

●BH議会下院、BH選挙法改正法案を否決(31日)

31日、BH議会下院会合が実施され、クロアチア系議員団提出及びSDA(ボシュニャク系、与党第一党)提出の両選挙法改正法案が否定された。この会合は昨年12月17日に開始され、1月17日に再開したが、両選挙法改正法案をめぐり議論が長時間に及んだため、31日に議決が持ち越されていた。

BH選挙法の改正は、BH裁判所による現行選挙法の違憲判決「リユービッチ事件判決」の履行に関係しており、5月初頭までに改正出来ない場合、2018年10月の国政選挙の結果の実施に重大な支障をきたすことになる。今回の否決により、議会における同法案の協議は一旦終了したが、現在国際社会の仲介により、各党が参加して非公式協議が継続しており、今後の動向が注目される。

(2)エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●2018年度BH連邦予算を成立(19日)

17日のBH連邦議会下院会合、及び19日の同上院会合において、2018年BH連邦予算が昨年度比6%増の約28億8,200万KM(約14億7,350万ユーロ)で採択され、予算が成立した。

同議会は、12月28日に予算に関する臨時会合を実施したが、与党HDZも含めたクロアチア系政党議員が全員欠席したことにより、休会に追い込まれ、BH連邦は暫定予算も持たないまま新年度を開始していた。なお、クロアチア系議員の欠席の理由は、BH選挙法改正法案をめぐるボシュニャク系与党第一党SDAへの圧力と見られていた。

●HDZ及びSDA、BH選挙法に関する野党案を拒否(23日)

23日、BH選挙法改正問題に関する野党SDP及びDF(共に社会民主主義、多民族政党)提出法案を協議するためのBH連邦議会臨時会合が予定されたが、クロアチア系議員及びSDAの欠席による定足数不足で開催されなかった。

選挙法改正問題をめぐっては、クロアチア系及びSDA(ボシュニャク系)が、BH議会に各改正法案を提出しているが(国家レベル、31日「BH議会下院、BH選挙法改正法案を否決」参照)、SDA及びDFはBH連邦に新法の法案を提出した。懸案となっている「リユービッチ事件」判決は、BH選挙法(国政レベル)によるBH連邦議会上院議員の選出方法(エンティティレベル)を違憲とした決定であるが、SDA及びDF案は、エンティティ議会に関する違憲判決という内容に主眼を置いて、BH法を改正するのではなく、エンティティに新選挙法を成立させることで解決を図ろうとしたもの。SDAは当初、同案に賛成していたが、予算の不成立などによるクロアチア系の圧力により急きょ立場を変更したと見られている。

25日、BH連邦政府は、SDP・DF法案に関して協議を行い、同案はBH連邦法ではなく、BH選挙法として改定起草されるべきと結論付けた。

●カントン10議会、「クロアチア系住民宣言」を採択(29日)

29日、クロアチア系が65%以上を占めるカントン10において、同カントン議会は旧ユーゴ国際刑事裁判所(ICTY)によるブルリッチ他5名の紛争時「ヘルツェグ・ボスナ・クロアチア人共和国」指導者の有罪判決及びクロアチアに

対する共同犯罪行為の認定、BH司法による民族バイアス等を非難する「クロアチア系住民宣言」を採択した。対して、ボシュニャク系議員団は、民族の死活的利益(VIN)に基づく拒否権を申し立てた。

イ スルプスカ共和国(RS)

●「RSの日」公式祝賀行事の開催(9日)

9日、RSの中心都市バニャ・ルーカにおいて、「RSの日」祝賀行事が開催され、RSの警察や災害救助隊によるパレードと、記念シンポジウムが実施された。記念シンポジウムには、ドディック大統領、イバニッチ大統領評議会メンバー(セルビア系)等に加え、セルビアからニコリッチ前大統領、ステファノビッチ副首相兼内相、ブリン国防相が出席した他、ビブロフ「南オセチア大統領」、イバンツォフ駐BH露大使等が出席した。

ドディック大統領は、同シンポジウムにおいて、「RSとセルビア人の自由のために3万人が命をささげており、RSと1月9日は、これからも続く。」と述べた。また、 Dayton合意では主権の大半はエンティティに属すると定められており、「RSは国家、BHは国家連合」と述べ、同合意から現在までにRSがBHに奪われた権利を取り戻すために闘っていくと述べた。

同祝賀行事に対し、駐BH米国大使館をはじめとする国際社会は、「RSの日」に関してはBH憲法裁判所が違憲判決を下しているにも拘わらず祝賀行事を開催したことは、法の支配に反する行為であると批判した。

●RS、「南オセチア」との覚書に署名(10日)

10日、クロキッチRS経済・地域協力相とメドエフ「南オセチア外相」は、両者間の経済、文化、教育分野における協力に関する覚書に署

名を行った。ドディックRS大統領は、この署名について、両者間の類似の歴史に鑑みれば、協力関係は極めて正当なものであると述べた。

なお、南オセチア代表団は、前日の「RSの日」祝賀行事出席のためにBHを訪問していたが、ジョージアは、同国からの離脱を宣言している南オセチアの代表団が、同祝賀行事に出席するためにBHを訪問したことに対して、抗議の外交口上書をBHに対して送付した。対してBH外務省は、BHとジョージアは領土的一体性と主権の相互尊重に基づいた友好関係を有しているが、南オセチア代表団の来訪に関する公的な連絡は一切なく、BH外務省は関知していなかった旨発表した。

●「セルビア人の名誉」に準軍事組織の疑い

1月第3週、「RSの日」祝賀行事のパレードに参加した自称人道団体「セルビア人の名誉」に関し、実態はドディックRS大統領に私兵として仕える犯罪傭兵組織なのではないかとの疑いが浮上し、同団体メンバーが、パレードの後、ドディックRS大統領の招待でRS国民議会に招かれ、同大統領と共に納まった写真と共に、国内外で大きく報道された。

16日、メクティッチBH治安相(セルビア系、SDS)は、「彼らは準軍事組織であり、我々は彼らから自分達を守らなければならない。」と述べた。報道によれば、同団体は、露に拠点を置きセルビア及びRS等で活動しており、メンバーの多くは最近までウクライナ東部で志願兵として露軍側で戦っていた。

●バニャ・ルーカ孔子学院の開設(21日)

21日、バニャ・ルーカ大学において、孔子学院の開設式が行われ、孔子学院は正式に活

動を開始した。式典にはドディックRS大統領及びZhal Haishan天津市副市長の他、ツビヤノビッチRS首相、ツルナダクBH外相、天津市代表団、ラドイチッチ・バニャルーカ市長等が出席した。

孔子学院は、バニャ・ルーカ大学の政治学部内に設置され、今後学生は無料で中国語コースを受講でき、優秀者は中国に留学できる他、中国の大学との学生交流及び共同研究等が予定されている。なお、サラエボ大学には既に孔子学院が開設されている。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●欧州評議会、BHに関する決議を採択(24日)

24日、欧州評議会はBHに関する決議を採択した。同決議は、改革アジェンダの採択や、EU加盟申請の提出等BHの欧州統合に向けた一定の進歩は認めつつ、欧州人権裁判所による「セイディッチ・フィンチ事件」判決やBH憲法裁判所によるリユービッチ事件」違憲判決の履行、長年に渡るモスタル市における選挙の不実施等を挙げ、改革の遅れを非難している。また、BH連邦のクロアチア系が多数派の4カントン政府に対し、セルビア系住民を憲法上の構成民族とするようにカントン憲法を改正するように求めた他、RS政府に対し「RSの日」の違憲判決を履行するよう求めるなど、法の支配の徹底を要求した。

また、同会合において、BH出身のドウニャ・ミヤトビッチ元OSCEメディアの自由代表が欧州評議会人権コミッショナーとして選出された。

●トルコ・セルビア・BHによる3者会談の開催 (29日)

29日、イスタンブールにおいて、エルドアン・トルコ大統領主催で、プチッチ・セルビア大統領及びイゼトベゴビッチBH大統領評議会メンバー(ボシュニャク系)が参加した3者会談が行われた。

会談後、イゼトベゴビッチ・メンバーは、同会談では、サラエボ＝ベオグラード間高速道路のルートについて合意した点、及びプチッチ大統領が「BHがセルビアにより問題を抱えることは今後二度とない」と発言した点の2点で歴史的な会談であったと発言した。

同高速道路は、2016年末にトルコの提唱で検討が開始されたものの、BH内でルートが合意できず計画のままになっていたが、この度、BHが揉めていた2ルートの両方を採用し、2都市を環状に繋ぐことで合意。資金は、全ルートをトルコが負担する代わりに、トルコ企業によるBOT方式が提案され、今後詳細が検討されることとなる。

一方、BHにおいては、現在のBH大統領評議会議長はチョービッチ・メンバーであるにも拘わらず、また、大統領評議会の合意を経ずにイゼトベゴビッチ・メンバーが本会合に出席したとして、ドディックRS大統領、チョービッチ議長らから激しい非難の声が上がった。

(2)二国間関係

●グラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領のBH訪問(17日)

17-18日、グラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領はBHを訪問し、大統領評議会及び閣僚評議会らと会談を行った。

大統領評議会3メンバーとの会談後の記者

会見で、同大統領は、今回の会談は非常にオープンなものだったと評価し、クロアチアにはBHの過程をモニタリングし、必要があれば友好的に指摘する義務があると述べた。クロアチア系提出のBH選挙法改正法案について聞かれると、「会談では、BH憲法裁判所による違憲判決遵守の観点から同問題を話し合ったが、詳細には触れておらず、今後もクロアチアが詳細にかかわることはない。本件はあくまでBHの政治家達が解決すべきことである。」と述べ、内政干渉を否定した。

同大統領は、その他にもプリッチBHローマ・カトリック教会枢機卿とも会談し、クロアチア系が多数派の町を訪問した。また、スレブレニツァの母の会とも会談した他、BH紛争中にクロアチア防衛軍(HVO)によりボシュニャク系市民が116名殺害されたアフミチ村に立ち寄り、記念碑に手を合わせた。

●欧州委員会、クロアチアに対し、ペリエシャツ橋建設に関するBHとの合意を要求か

18日、BHメディアは、クロアチアとBHの間で対立が発生しているペリエシャツ橋の建設に関し、欧州委員会は、クロアチアに対して書面で、同橋の建設を開始する前にBHとの間で海洋国境線を合意することを求めたと報道した。

同橋は、クロアチアの沿岸地方南部にあるコマルネ(大陸側)とペリエシャツ半島を結ぶ橋。これによりクロアチアは、自国領土を分断しているネウム周辺のBH領に入ること無く、移動することが可能となる。一方で、BHのボシュニャク系は同橋の建設で外海へのアクセスが制限されるとして反対していた。

本件については、1日前に、BHを訪問中のグラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領が、

自らユンカー欧州委員会委員長に報告を行い、EUとしては同橋の建設には問題がない回答を受けたと大統領評議会メンバーに伝えていた。同書簡の内容は、クロアチアのメディアが明らかにしており、「EUとしては問題がない」が、「将来的な問題をきたさないように隣国との問題を解決してからの建設を求める」といった内容を、どう解釈するかによって今回の行き違いが発生した様子。

● ズビズディッチ閣僚評議会議長と中国天津市副市長との会談

22日、ズビズディッチBH閣僚評議会は、BHを訪問中のZhao Haishan副市長率いる天津市代表団と会談を行った。同議長は、BH中国関係は「一帯一路」を通して強化されると表明した。Zhao副市長は、中国北部の文化・経済の中心都市であり世界有数の湾岸都市である天津市の経験を紹介し、1981年以来サラエボと天津は姉妹都市として協力を促進していると述べ、観光協力に向けた文化、スポーツ、教育分野での協力発展への関心を表明した。

3. 経済

(1) 経済指標 (BH統計局発表)

● GDP成長率

17年第3四半期の実質GDPは、前年同期比2.9%の増加。

● 鉱工業生産高

17年12月の鉱工業生産高は、前月と比較して、4.3%の減少。

● 雇用／失業者数

17年11月のBH全体の雇用者数は754、

817人。同月の失業者数は475,549人で失業率は38.7%。

● 平均給与

17年11月のBHにおける平均給与(手取り)は857KM(約438ユーロ)。

● 消費者物価指数

17年12月の消費者物価指数は前月から変動なし。

● 貿易額

17年1月～12月のBHの輸出額は110億5,360万KM(約56億5,160万ユーロ)、輸入額は181億3,430万KM(約92億7,190万ユーロ)。

・輸出相手国上位5カ国(貿易額:17年1月～12月、仕向地基準):①ドイツ(15億9,570万KM/約8億1,590万ユーロ)、②クロアチア(12億8,290万KM/約6億5,590万ユーロ)、③イタリア(12億900万KM/約6億1,820万ユーロ)、④セルビア(10億9,370万KM/約5億5,920万ユーロ)、⑤スロベニア(9億7,340万KM/約4億9,770万ユーロ)。参考:日本(55万1000KM/約28万2,000ユーロ)。

・輸入相手国上位5カ国(貿易額:17年1月～12月、原産地基準):①ドイツ(21億380万KM/約10億7,560万ユーロ)、②イタリア(20億6,210万KM/約10億5,430万ユーロ)、③セルビア(20億3,000万KM/約10億3,790万ユーロ)、④クロアチア(18億2,840万KM/約9億3,490万ユーロ)、⑤中国(11億8,610万KM/約6億640万ユーロ)。参考:日本(1億408万KM/約5,321万ユーロ)。

●観光客数

17年12月、BHにはのべ82,842人(うち日本からは225人)の観光客が訪れた(注:宿泊を伴った観光客の総計)。

(2)経済政策、公共事業

●RS電力公社、風力発電に関する入札を発表(29日)

29日、BH第二の電力会社であるRS電力公社(ERS)は、49メガワット相当の風力発電施設の建設に関するコンサルタントの入札を発表した。対象となるのは、BH南東部のベルコビチに建設予定のフルグド(Hrgud)風力発電施設で、3メガワットの風力タービンを16機備えることとなる。ERS社は、2015年に同施設の建設・運営を50年のコンセッション契約で落札した。同契約は総額6,500万ユーロで、その内、6,000万ユーロを独開発銀行KfWからの借款で賄い、500万ユーロを自主調達する。同施設の稼働は4年以内を予定している。コンサルタント内容は、同プロジェクトに向けた環境や社会に対する影響評価やマネージメント・プランの作成支援等で、入札の締め切りは3月30日。

BHは現在電力の40%を水力、その残りを石炭火力で発電しているが、2020年までに再生可能エネルギーの割合を43%まで増加させる計画。なお、BHは他のバルカン諸国とは異なり、豊富な水力のおかげで電力輸出国となっている。

(3)経済協力

●EU、緊急対応の強化に約97万ユーロを供与(25日)

25日、ブルチュコ特別区においてEUのIPA

プログラムの一環で、BH・セルビアの二国間協力による緊急対応能力強化プロジェクトの引き渡し式が実施された。

このプロジェクトは、総額116万ユーロのうち約84%(約97万ユーロ)をEUが負担し、セルビアをパートナーとして、ブルチュコ特別区政府とボサンスキ・ブロード市が共同で実施するもので、本プロジェクトにより、ブルチュコ特別区の救命隊は、車両2台、大型ポンプ3機、排水ポンプ2機、ユニフォーム、ボート等の装備を供与された。プロジェクトは、実施パートナー間の共同訓練も含まれており、引き渡し式においても、供与された装備を使い、ブルチュコ特別区とブロード市の救命隊による共同演習が実施された。

EU代表部は、「今回の装備の供与は、国境を越えて使用されることで、既存の社会的及び経済的な地域の結束を強化するだけでなく、新しいネットワークを構築し、共通の問題に効率的に取り組むという機会を提供する。」と述べた。

(4)民間セクター

●ガツコ火力発電所2号機建設事業の技術的協議(15日)

15日、昨年12月にガツコ火力発電所2号機建設事業に関して、RS政府との契約に署名した中国企業、China Machinery Engineering Corporation(CMEC)及びNorth east Electric Power Design Institute(NEPDI)の技術者がガツコに到着し、同発電所との間でプロジェクトの実現に向けて技術的問題の協議を行い、合意した。

同事業は、350メガワット規模の第2号機の建設を行うもので、契約金額は、見積額で10億KM(約5億1,000ユーロ)以上であった。

同契約に基づき、今後、中国側51%、RS49%の出資比率で合弁会社が設立される予定となっている。

●トルコ企業、BHへの観光投資に関心

1月第4週、トルコの合弁会社Heritage Turk社の代表がBHを訪問した。同社は、コリチャニ(両エンティティにまたがるBH中部の街)において総合観光施設を建設する計画に対する投資に関して、同計画を担うBH企業Tomix社との交渉に向けて順義を行っている。

Heritage Turk社は、関連会社である中国のHerigate Resources社及びCaricom Oil China社とともにHeritage Platformを形成し、中国の政府、投資銀行、国営企業等から資金を調達している。

(了)